

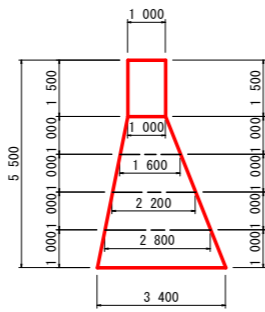
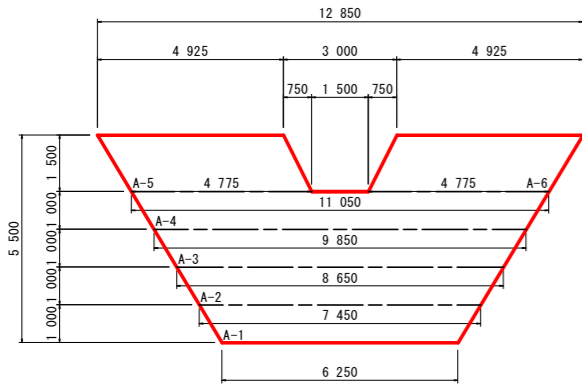
コンクリート打設参考図・足場工算出要領図(2号床固工)

S=1/100

コンクリート打設参考図

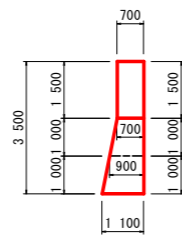
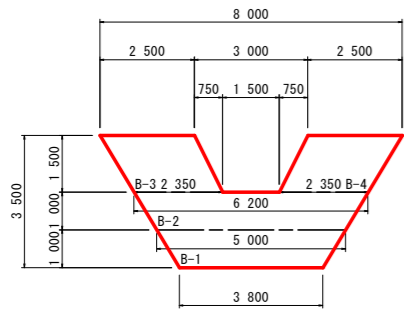
正面図

断面図



ブロック打設計画

打設順序	ブロック番号	コンクリート設計数量	累計
1	A-1	21.18	21.18
2	A-2	20.07	41.25
3	A-3	17.52	58.77
4	A-4	13.53	72.30
5	A-5	7.28	79.58
6	A-6	7.28	86.86
合計			86.86



ブロック打設計画

打設順序	ブロック番号	コンクリート設計数量	累計
1	B-1	4.38	4.38
2	B-2	4.46	8.84
3	B-3	2.55	11.39
4	B-4	2.55	13.94
合計			13.94

足場(キャットウォーク)延長

足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を1.8mとして段数を決定し算出する。

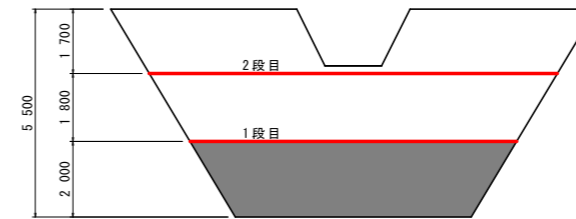
足場延長算出式 $L_a = A_a / 1.8m$
 A_a : 足場対象面積 (m²) ※垂直投影面積とし、足場の不要となる基礎地盤より2.0m分は控除するものとする。

- 注意事項
1. 間詰がない場合は基礎から2mのところより計上する。(足場の不要となる基礎地盤とは、平坦(i=1/10以内)が5.0m以上の箇所をいう)
 2. 斜線部分は計上しない。
 3. 1ブロック(目地の間)内では段差はつけない。
 4. ジョイント部は各年度の最終リフト差が2mを超える場合に計上する。

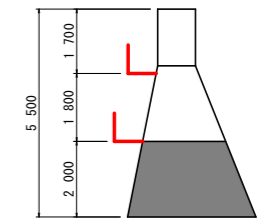
足場工算出要領図

床固工(下流側)

正面図



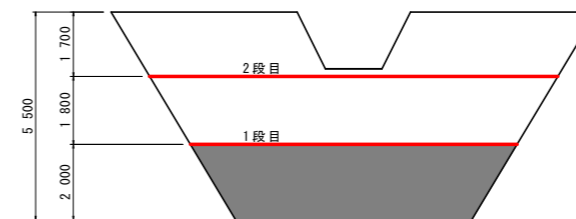
側面図



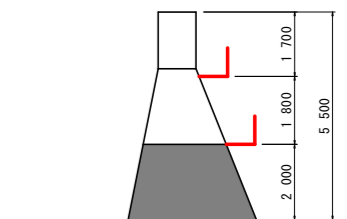
$A_a = 34.25m^2$
 $L_a = 34.25 / 1.8 = 19.0m$

床固工(上流側)

正面図



側面図



$A_a = 34.25m^2$
 $L_a = 34.25 / 1.8 = 19.0m$

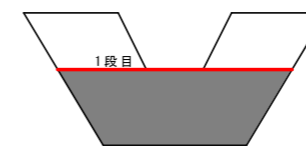
堤体施工に関する留意事項

- 1 リフト高
 - 1) リフトの打設高さは0.75~2.0mを標準とする。
 - 2) 岩盤上及びやむを得ず長い日数にわたって打止めておいたコンクリートに打継ぐときは0.75~1.0mのリフトで数リフト打つのがよい。
 - 3) 旧コンクリートの材令が0.75m以上1.0m未満のリフトの場合は3日(中2日)、1.0m以上1.5m未満のリフトの場合は4日(中4日)、1.5m以上2.0m以下のリフトの場合は5日(中4日)に達した後に新コンクリートを打継ぐなければならない。
 - 4) 隣接ブロックの打設高低差は、上下流方向で4リフト、横方向8リフト以下とする。
- 2 打設計画
 - 1) 施工に先立ち全体の打設計画を立て、日々打設のブロック割を決定し、打設する。
 - 2) ブロック打設の場合は硬化熱の発生を考慮し、隣接ブロックの打込み順序を決める。
 - 3) コンクリート打込み前にあらかじめ基礎岩盤面の浮石、堆積物、油及び岩片等を除去した上で、圧力水等により清掃し、溜水、砂等を除去しなければならない。
 - 4) コンクリートを打込む基礎岩盤及び水平打継目のコンクリートについては、あらかじめ吸水させ、湿潤状態にした上で、モルタルを塗り込むように敷均さなければならない。
 - 5) モルタルの配合は本体コンクリートの品質を損なうものであってはならない。また、敷き込むモルタルの厚さは平均厚で、岩盤では2cm程度、水平打継目では1.5cm程度とするものとする。
 - 6) 水平打継目の処理については、圧力水等により、レイトランス、雑物を取り除くとともに清掃しなければならない。
 - 7) 1リフトを数層に分けて打込むときには、締固めた後の1層の厚さが、40~50cm以下を標準となるように打込まなければならない。
 - 8) コンクリートの養生を散水等により行わなければならない。コンクリートの養生方法は、外気温、配合、構造物の大きさを考慮して適切に行わなければならない。
 - 9) 水通し部は、なるべく計画洪水量を流通させる断面を確保できる打設計画とする。
 - 10) 水通し部と前底部の打設計画は、水叩工を施工する前に水通し部の打設高を高くしてはならない。また側壁を打設完了した場合、本堤水通し幅は側壁幅以下とする。
 - 11) 前底部側壁の打継は水叩上面と同一高さで打継いでなければならない。
 - 12) コンクリートの打込みはコンクリートバケットの使用を標準とし、コンクリート打込み用バケットを、その下端が打込み面上1m以下に達するまで降ろし、打込み箇所のできるだけ近くに、コンクリートを排出しなければならない。
- 3 新旧年度の打継
 - 1) 新旧年度打継の水平面は硬化遅延剤、垂直面はチッピング処理を講じる。チッピングの厚さは0.5~1.0cm程度とする。
 - 2) 硬化遅延剤の施工方法はコンクリート打設後、フリージング水を除去してから液体を散布し、約8~24時間後(一般に12~14時間)、水を噴きかけながら硬いブラシでこすり、凝結遅延しているモルタル部分を完全に洗い出し骨材を露出させる。

※ 徳島県 砂防技術指針(案) 平成29年4月 P.VIII-13

垂直壁(下流側)

正面図



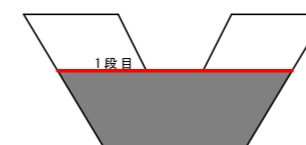
側面図



$A_a = 7.28m^2$
 $L_a = 7.28 / 1.8 = 4.0m$

垂直壁(上流側)

正面図



側面図



$A_a = 7.28m^2$
 $L_a = 7.28 / 1.8 = 4.0m$

■足場工数量

床固工: $19.0 + 19.0 = 38.0m$
 垂直壁: $4.0 + 4.0 = 8.0m$

参考図面(当初)

工事名	R8徳土 地蔵谷一号支川 徳・加茂名 砂防工事
路線名等	地蔵谷一号支川
工事箇所	徳島市加茂名町東名東山
図面名	地蔵谷一号支川
縮尺	1:100 図面番号 1 / 1
会社名	
事業者名	徳島県 徳島県土整備事務所